

第4回 小牧市高齢者保健福祉計画推進委員会 議事録

日 時	令和2年10月15日(木) 13時30分～15時15分
場 所	小牧市役所本庁舎 4階 402会議室
出席者	<p>【委員】(名簿順)</p> <p>長岩 嘉文 日本福祉大学中央福祉専門学校 校長 関谷 みのぶ 名古屋経済大学教授 前川 泰宏 小牧市医師会代表 佐々木 成高 小牧市歯科医師会代表 田中 秀治 小牧市社会福祉協議会代表 木村 正尚 小牧市民生・児童委員連絡協議会代表 米井 ちさと 春日井保健所代表 土佐 知美 小牧市介護支援専門員連絡協議会会長 伊藤 里美 小牧市介護保険サービス事業者連絡会会長 江口 はづき 介護施設代表 入谷 陽祐 小牧市介護保険サービス事業者連絡会 訪問看護部会代表 四宮 貴美子 小牧市内地域包括支援センター管理者代表 水谷 幸一 連合愛知尾張中地域協議会代表 長田 孝子 小牧市老人クラブ連合会代表 志村 優範 小牧市区長会連合会代表 桑山 美知代 公募委員 小林 静生 公募委員</p> <p>【代理出席】</p> <p>飯塚 美由紀 春日井公共職業安定所代表</p> <p>【欠席委員】</p> <p>浅井 宏昭 小牧市薬剤師会代表 加藤 三紀子 ボランティアグループ日向ぼっこ代表</p> <p>【事務局】</p> <p>松永 祥司 福祉部 次長 西島 宏之 福祉部 地域包括ケア推進課長 平手 明仁 福祉部 介護保険課長 永井 政栄 健康生きがい支え合い推進部 健康生きがい推進課長兼文化・スポーツ課長 野口 弘美 健康生きがい支え合い推進部 保健センター所長補佐 野村 有紀子 福祉部 介護保険課保険資格係長 倉知 佐百合 福祉部 地域包括ケア推進課福祉政策係長</p>
傍聴者	1名
配付資料	<p>資料1 介護保険認定者実態調査(面接調査)の結果 資料2 第8次小牧市高齢者保健福祉計画の素案 資料3 第8次小牧市高齢者保健福祉計画目次構成 資料4 策定スケジュール 当日資料 配席表、委員名簿</p>

1. 開会

(1) あいさつ

- ・長岩会長あいさつ

2. 議題

(1) 介護保険認定者実態調査（面接調査）の結果について

- ・事務局より、資料1：介護保険認定者実態調査（面接調査）の結果について説明。
- ・質疑、主な意見は以下の通り。

佐々木委員)

- ・医学的根拠もあるので歯周病を一つの傷病としてP9の選択肢に入れると良い。
- ・今まで以上に歯科と医科の連携を強化する必要がある。

長岩会長)

- ・既に調査としては国の項目に基づいて実施されたものであるが、医学的根拠もあるなら、次回以降の調査では項目に含めても良いと考える。
- ・この後の議題になるが、第8次小牧市高齢者保健福祉計画素案の第4章、2「フレイル・オーラルフレイル予防の推進」とある。
- ・主に介護者の実態についての調査結果となるが、現場と大きく乖離しているようなことはないか。

土佐委員)

- ・大きく乖離しているという印象はない。
- ・ご家族の就労状況や働き方の調整をしている方についても概ね調査結果のとおりかと思う。

伊藤委員)

- ・P16、日中の排泄、夜間の排泄、それから認知症状への対応については、もう少し数値が高くて良いのではと思う。

江口委員)

- ・大きく乖離はないと思うが、伊藤委員の意見にもあったが、日中のサポートについては、もう少し数値が高いのではないかと思う。

四宮委員)

- ・P3、介護者がフルタイム、パート勤務で働いているという現状が多い。
- ・そのような中、P4、「主な介護者が行っている介護」では、「外出の付き添い、送迎等」が多く、働きながらどのようにされているのか、また、P5、「今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護」でも、「外出の付き添い、送迎等」は高く、働きながら介護を継続するために何かしらの整備が必要だと思う。

長岩会長)

- ・第8次小牧市高齢者保健福祉計画となるべく連動するように策定できると良い。
- ・P19、「サービス利用の組み合わせ」では、未利用と答えた方が2割弱おり、P11、「介護保険サービス未利用の理由」では、数値は低いものの、「以前、利用していたサービスに不満があった」、「利用料を支払うのが難しい」、「利用したいサービスが利用できない、身近にない」という意見があったことも調査結果として受け止めていただきたい。

(2) 第8次小牧市高齢者保健福祉計画の素案について

□ 第1章～第2章

- ・ 事務局より、資料 2、3：第 8 次小牧市高齢者保健福祉計画の素案（第 1 章～第 2 章）について説明。
- ・ 質疑、主な意見は以下の通り。

長岩会長）

- ・ P14 の認知症高齢者の現状について、上段の表は要介護（要支援）認定者数のうち、認知症高齢者数の占める割合を示したものであり、認知症の方は、要介護（要支援）認定者以外にも存在するため、下段の表を今回新たに作成されている。
- ・ 資料 3 の第 7 次計画との比較では、第 6 章として「認知症施策の推進」としている。

小林委員）

- ・ 第 7 次計画と比べ第 8 次計画では、認知症も重視する内容になっており、良いと思う。

□ 第 3 章～第 6 章

- ・ 事務局より、資料 2、3：第 8 次小牧市高齢者保健福祉計画の素案（第 3 章から第 6 章）について説明。
- ・ 質疑、主な意見は以下の通り。

桑山委員）

- ・ フレイルという言葉聞いたことはあるが、なかなか頭に入っていない。
- ・ 要介護になった時の心配は、移動の手段と、在宅の場合は食事だと思う。
- ・ そういったことを気軽に相談できる場所や窓口があれば良いと思う。

志村委員）

- ・ 新型コロナウイルス感染症対策のため、会館や施設で集合して触れ合うということができていない。
- ・ 少しずつ緩和されてきており、あと 1、2 年のことかもしれないし、長くなるかもしれないが、今回の計画の中に新型コロナウイルス感染症対策についての記述がないのはいかがなものか。
- ・ 特に区としては、支え合い、助け合いの部分で関連してくると思うがどのような対策を考えているか。

長岩会長）

- ・ 第 4 章の 2 として、「フレイル・オーラルフレイル予防の推進」とあるが、一般の認知度は低い状態である。どのように周知し推進していくのか。
- ・ この時期の計画であれば新型コロナウイルス感染症対策として記述が必要なのかどうか、現時点で事務局はどう考えているか。

事務局）

- ・ P53、災害や感染症対策に係る体制整備と国の指針にあり、現在の案は部分的に災害や感染症対策という内容を盛り込んでいるところであるが、感染症対策をより意識する表現に変えていく。
- ・ あらゆる機会を捉え、フレイル・オーラルフレイルの周知、普及啓発をしていきたい。

前川委員）

- ・ 専門ではないが、フレイルという言葉は日本語に置き換えるのが難しいため、そのまま使用しているのではないか。

長岩会長）

- ・ 介護予防で何ができるかという実証データの中で、フレイルという概念が脚光を浴びた。
- ・ いずれお年を召して、要介護状態になってしまうかもしれないが、それを遅らすことができたり、人との交流へ繋がったり、趣味を持つことができるなどの観点から言われているのかなと思う。

米井委員）

- ・ 県や国と比較して高齢化率が高くない地域こそ、予防の取り組みを積極的にすることは非常に良いことだと思う。
- ・ 新型コロナ感染症対策の話があったが、新型コロナ感染症対策に特化した対策・施策よりも、感染症全般に関する対策・施策を考えていただいた方が妥当だと思う。

長岩会長)

- ・ 以前に日本赤十字社が新型コロナウイルスを正しく恐れるためにという資料・動画を作成していた。その程度の内容を入れても良いと思う。
- ・ サロンなどの地域活動は基本的な感染症対策をすれば開催しても良いとなりつつある。
- ・ まだ、しっかり整理されてはいないが、WHO（世界保健機構）では、ソーシャルディスタンスという言葉は使われておらず、フィジカルディスタンスとしている。社会的に距離をとるのではなく、身体的な距離をとることである。

田中委員)

- ・ 10月からサロンを再開している。地域の方によって様々な考え方がある中で、感染対策など話し合い、支え合い推進員が現場の状況を確認している。
- ・ 感染症対策として1つ項目を設けても良いのではないかと思う。
- ・ フレイルや認知症をクローズアップしていることで、現在、関わるべきポイントが分かりやすい。

関谷副会長)

- ・ 目指す姿というのが主体的に表現されているのが良いと思う。
- ・ P75の地域包括支援センターは中核を担う非常に大事な機関である。認知度が上がってはいるものの、33%と低い状態にある。周知を積極的にしている、していきますということだが、あまり認知度が上がらないのはなぜか。それが、他の成年後見制度や権利擁護支援センター、フレイルなど周知をしていく時の良いアイデアに繋がらないか。

四宮委員)

- ・ 認知症となると高齢者の総合相談の窓口として捉える方が多いが、介護となると、必要になった時、問題が起こった時に初めて地域包括支援センターを知るという方が大半を占めている。
- ・ 地域包括支援センターは予防の取り組みもあるが、市の中でも様々な機関が予防の取り組みを実施しているため、小牧市や保健センターとして見られたりすることが多いのではないかと思う。
- ・ 権利擁護支援センターは、言葉としては良く聞くが、実際に利用している人は0.4%と低い、地域包括支援センターも関わっていく必要があると感じている。
- ・ そのためには、アウトリーチ（出向く支援）として関わるべきと考えるが、現状は要支援1、2の方に対する業務が多く、啓発活動が十分ではないと感じる。

長岩会長)

- ・ 仮に、認知度が上がらなかったとしても、必要な時に支援に繋ぐことができれば認知度が低くてもそこまで支障はないと思う。

水谷委員)

- ・ 社会福祉協議会の田中委員に依頼をして、教育の中で地域包括支援センターの紹介をしてもらった。
- ・ 他の地域にも地域包括支援センターがあるので、市だけでなく、企業も巻き込むことで他市町村の住民へ地域包括支援センターが存在し、何をしているところなのか説明するのも良いと思う。
- ・ 市の広報だけでは伝わりづらいので、若い世代の人たちにも知ってもらうため、企業からチラシを配布してもらうことで、認知度が高まり、利用が増えるのではないかと思う。
- ・ 教育やチラシを配布することで、小牧市には地域包括支援センターが在ることや業務内容を知り、自分の住む市町村に相談に行くという話もあるかと思う。そのような取り組みになれば良いと思

う。

- ・ 新型コロナウイルスの関係から、企業においても65歳以上の雇用者の契約を終了するという流れになっている。
- ・ 自宅で過ごす65歳以上の方が増加すると思われ、今後はアンケート調査の結果にも影響があるのではないかと思う。

長岩会長)

- ・ やはり、感染症対策を意識しつつ、第8次計画を策定しているということがわかるような工夫が必要だと思う。

(3) その他 策定スケジュールについて

- ・ 事務局より、資料4：策定スケジュールについて説明。

事務局)

- ・ 事務局にて、議事録を作成後、委員の皆さまに確認していただき、公開させていただく。

3. 閉会